

メーキャップによる笑顔特徴演出の効果

Effect of Makeup Expressing the Features of Smile

山南春奈¹⁾、高野ルリ子²⁾、上田美江子²⁾、高田定樹³⁾

Haruna YAMANAMI¹⁾, Ruriko TAKANO²⁾, Mieko UEDA²⁾, Sadaki TAKATA³⁾

E-mail : haurna.yamanami@to.shiseido.co.jp

和文要旨

化粧（メーキャップ）は彩色を通し、顔の形態情報を操作するため、顔印象に影響を与える。その影響は、表情にも作用すると推測されるが、これまでは主として真顔を対象とし、顔固有の静的な印象に対して論ずるものが多かった。本研究では、化粧の対人コミュニケーションにおける作用の一つの側面として、化粧の仕方によって、表情、特に笑顔の印象や知覚が変化するかどうかを明らかにすることを目的とした。

メーキャップアーティストが同一モデルに対して、笑顔表出による顔の特徴変化に即して施した化粧（笑顔化粧）と、その変化と対照の非笑顔特徴に即して施した化粧（非笑顔化粧）により演出した。これらの2つの化粧演出に素顔を加えた3種類の化粧条件に対して、4種類の笑顔の度合いを表出した計12枚の顔画像を刺激とし、化粧が顔印象や笑顔の度合い知覚に及ぼす影響を検討した。評価者はモデルと同世代の25-34歳女性20名であった。

その結果、素顔条件において、笑顔によって強化される印象のうち、笑顔化粧の場合は「美しい」「魅力的な」の印象をさらに促進し、非笑顔化粧の場合は、「親しみやすい」「やさしい」を抑制することがわかった。また、笑顔化粧は表出の小さい笑顔のときに笑顔知覚を促進し、非笑顔化粧は表出の大きい笑顔のときに笑顔知覚を抑制した。このことから、化粧方法により、笑顔の印象およびその表出度合いの知覚を制御できることが示唆された。

キーワード：化粧、笑顔度、表情、印象、顔

Keywords : Makeup, Smile intensity, Facial expression, Facial impression, Face

1. 緒言

化粧は容貌の魅力を向上させる。それは自己の満足感を高めると同時に、社会とのかかわりの中での自己の顔を演出するという対人コミュニケーションにおける重要な役割も果たしている [1]。化粧における彩色（メーキャップ）は、顔の肌の色を整え彩ることで、さらに顔や顔パーツの形態の見え方に錯覚を生じさせることを通じて、顔印象を操作する [2]。施す色の選択や、塗付の仕方、描き方などのメーキャップテクニックによって、クールな印象、親しみやすい印象など、異なる印象演出が可能となる [3]。

その理論的枠組みの一つとして、顔と印象の関係を表した顔だちマップがあげられる [4]。顔だ

ちマップは、顔の要素の配置バランスに対応するバランス軸と、顔の要素の形状に対応するフォルム軸からなる二次元平面である。バランス軸上に子供タイプ—大人タイプ、フォルム軸上に曲線タイプ—直線タイプが分類され、この2軸からなる形態座標によって顔印象が規定されるというものである。この関係性に基づけば、印象の操作を目指してメーキャップを施すことが可能となる。

阿部らは顔だちマップのフォルム軸が、表情認知に関わる快—不快の次元に関連する可能性を指摘している [4]。すなわち直線タイプの形態からは不快感・怒り・嫌悪などの否定的感情表現が、曲線タイプの形態から喜びや満足などの肯定的感情表現が想起され、対応した印象が引き出される

¹⁾ 資生堂リサーチセンター、Shiseido Research Center

²⁾ 資生堂ビューティークリエーション研究センター、Shiseido Beauty Creation Research Center

³⁾ 大阪樟蔭女子大学、Osaka Shoin Women's University